

# 眼科専攻医研修カリキュラム

## I. 研修目標

眼科疾患に対する適切な診断、治療及び手術の手技を修得し、眼科専門医を育成することを目標とする。

## II. 研修内容

1 眼科領域の解剖、生理学及び眼科疾患全般の基礎知識の修得

2 眼科疾患診断手技の修得

- 一般光源による検査(瞳孔反射、眼位測定及び眼球運動の評価等)
- 視力検査(自覚的・他覚的屈折検査、矯正視力検査の手技及び評価)
- 眼圧検査(接触型・非接触型眼圧計を用いての測定及び評価)
- 細隙灯顕微鏡検査(前眼部、中間透光体及び後眼部疾患の診断)
- 眼底検査(網膜(未熟児網膜症を含む)、ぶどう膜及び硝子体疾患の診断)
- 視野検査(静的・動的視野測定の手技及び評価)
- 眼底撮影検査(蛍光眼底撮影検査を含む)
- 超音波検査(A及びBモード超音波検査等)
- 網膜電位図検査
- 色覚検査(石原式色覚検査表、パネル D-15 テスト及びアノマロスコープ等)
- 複像検査(ヘスチャートテスト等)
- 両眼視機能検査(ステレオテスト、シノプトフォア等)
- 調節検査
- 涙液分泌量検査(シルマーテスト、綿糸法等)
- ...etc.

3 眼科処置の修得

眼鏡及びコンタクトレンズ、弱視レンズをはじめとするロービジョン補装具の処方

- 涙嚢洗浄(鼻涙管ブジーを含む)
- 睫毛拔去
- 結膜及び角膜異物の除去
- 結膜下注射
- 前房穿刺
- ...etc.

4 眼科手術手技の修得

レーザーを使用する手術.

手技の習得に当たっては、側視鏡を用いて、指導医の手技を学ぶことにより、技術の習得。実施時には指導医が側視鏡を用いて、監督、指導を行う。

(a)網膜レーザー光凝固剤(全麻下未熟児網膜症光凝固を含む)

(b) レーザー虹彩切開術

(c) 後発白内障切開術

(d) レーザー隅角形式術

眼科手術一般手技(消毒、麻酔等)

手技の習得に当たっては、すべて顕微鏡下手術であるため、助手用顕微鏡により術者と同視野による観察が可能。豚眼を用いた手術練習を行う。又、ビデオ収録も可能であるため、くり返し技術を学習した上で、簡単な手技を部分的に実施していく。実施時は必ず助手用顕微鏡から指導医が監督指導する。術者は随時、助手～指導医と交替できる体制にある。収録ビデオによる術後カンファレンスを行う。

外眼部手術

(a) 麦粒腫切開術

(b) 霰粒腫摘出術

(c) 翼状片切除術

(d) 眼瞼内反症手術

(e) 斜視手術

白内障手術

(a) 水晶体嚢外摘出術

(b) 水晶体超音波乳化吸引術

(c) 人工水晶体移植手術

緑内障手術

(a) 周辺虹彩切除術

(b) 繊維柱帯切除術

(c) 繊維柱帯切開術

網膜剥離手術

(a) 網膜ジアテルミー凝固術

(b) 網膜冷凍凝固術

(c) 強膜内陥術

硝子体手術

(a) 硝子体切除術

(b) 眼内レーザー光凝固術

...etc.

#### 【初年度】

一般眼科外来、初期救急医療に関する技術の修得、人間ドック診察、未熟児網膜症診察

診断、検査技術(視力、視野、眼底、屈折、眼圧、超音波、蛍光眼底造影、X線、CT scan、MRI - CT 等)

治療技術(結膜下注射・球後注射、涙嚢洗浄・ブジー・眼鏡及びコンタクトレンズ)

処方・眼外傷の救急処置、急性眼疾患の救急処置等)

手術(麦粒腫切開、霰粒腫摘出、翼状片、睫毛内反症、斜視、眼球内容除去術、眼球摘出術、網膜光凝固術)

症例検討会、ビデオによる術後カンファレンス、ケアカンファレンス

【二年度】

眼科外来、救急医療に関する技術の向上

診断、検査技術の向上(術前検査等)

治療技術の向上(入院手術患者の術前、術後管理)

手術(網膜光凝固術、白内障手術、虹彩切除術、外傷、レーザー手術全般)

抄読会、症例検討会、ビデオによる術後カンファレンス、ケアカンファレンス

論文発表、学会報告

【三年度】

眼科外来、救急医療に関する技術の向上

診断、検査技術の向上及び統計調査

治療技術の向上及び統計調査

手術(緑内障手術、眼球内容除去術、眼球摘出術、前房穿刺、眼瞼下垂手術、網膜剥離手術、硝子体手術)

抄読会、症例検討会、ビデオによる術後カンファレンス、ケアカンファレンス

論文発表、学会報告

週間スケジュール

週間スケジュールに従って外来診察、病棟回診時の助手を行うことで診療、診断、治療法を修得する。検査、処置、手術手技は助手を充分経験した後、実施する。実施時には正確に行えるようになるまで指導医が監視する。

	月	火	水	木	金
外来診察	毎日実施				
病棟回診	毎日実施				
人間ドック	毎日実施				
未熟児診察	毎日実施				
レーザー光凝固 特殊検査 特殊外来	-	午後	午後	-	-
手術	午前・午後			午前・午後	午前・午後

## 評価

専攻医氏名 \_\_\_\_\_

A：目標に到達

B：目標に近い

C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
正確に眼科疾患診断手技ができる（研修内容 ,2）						
正確に眼科処置ができる（研修内容 ,3）						
基本的手術手技が正しく実行できる（研修内容 ,4）						
補助的検査の指示、遂行ができる						
補助的検査の正確な診断能力がある						
疾患の病態、手術適応を把握し、説明できる						
手術患者の的確な術前、術後管理ができる						
手術の計画を立て、手術の説明と記録ができる						
救急患者を的確に処置できる						
患者の救急事態に対して適切に primary care ができる						
患者、家族に対して的確な病状説明ができる						
外来診療が適切にできる						
学会活動が適切にできる						
チーム医療に参加できる						